

平成27年度九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修

システム情報技術系・生産技術系
満吉 修二、松元 明子、中村 達哉

1. 期間

平成27年8月26日(水)～8月28日(金)

2. 会場

国立大学法人鹿児島大学連合農学研究科棟 3階会議室(郡元キャンパス)

3. 目的

九州地区国立大学法人等の教室系技術専門職員相当の職にある者又は採用後5年以上の教室系の技術職員(以下「中堅技術職員」という。)に対し、その職務遂行に必要な一般的知識及び新たな専門的知識、技術等を習得させ、職員の資質の向上等を図ることを目的とする。

4. 研修内容

8月26日(水) オリエンテーション・開校式

講話：「技術職員としての役割」鹿児島大学大学院理工学研究科長 近藤 英二 氏

講習・演習：「プレゼンテーション研修①」株式会社インソース 長菅 隆義 氏

8月27日(木) 講習・演習：「プレゼンテーション研修②」株式会社インソース 長菅 隆義 氏

施設見学：鹿児島七ツ島ソーラー科学館

さつま無双株式会社

8月28日(金) 講義：「職場におけるメンタルヘルス」鹿児島大学保健管理センター准教授 川池 陽一 氏

講義：「職場の安全衛生管理」堂下労働安全コンサルタント事務所 堂下 等 氏

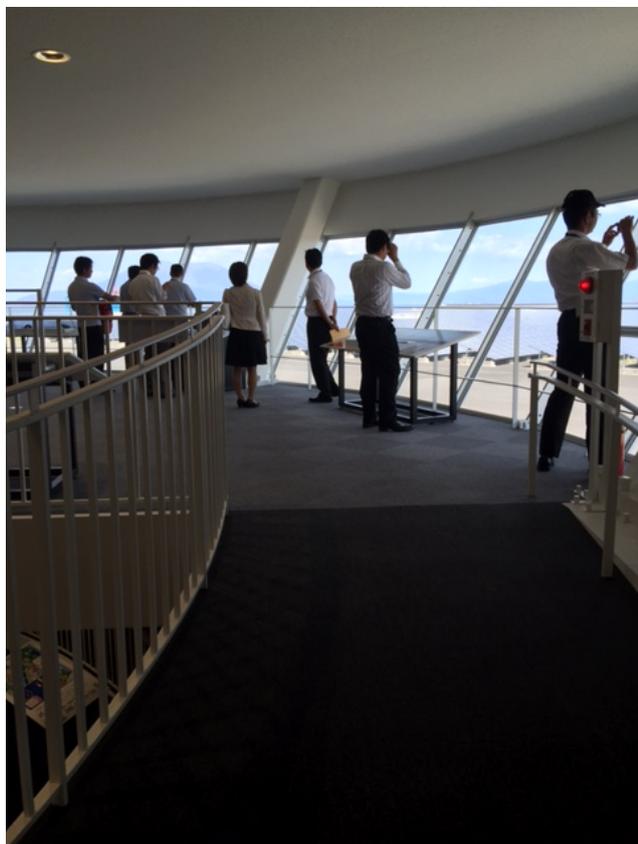


写真 鹿児島七ツ島ソーラー科学館及びさつま無双株式会社見学会

5. 研修報告

システム情報技術系第二班 満吉 修二

今回の研修で一番身についたことは、講習・演習で実施したプレゼンテーションにおいてどのように話せば相手に伝えられるかを学んだ。「伝える」ことは限られた時間の中で相手に自分の考えを理解してもらい、その上で納得して行動してもらう事であり、伝える行動の中で表情、姿勢、態度、声、スピード、内容分かりやすさが大事だと教わった。そして演習の中で課題を選択し 5 名の前で自分が考えたことを相手に伝えることを実践形式でプレゼンテーションを行い、フィードバックをして自分の良い点悪い点アドバイスもらった。アドバイスを意識してこの後 2 回 3 回のプレゼンテーションを行い少しは上達したように感じたが、相手に十分伝わるにはこれからの日頃の鍛錬が大事だと痛感した。

施設見学は地元鹿児島県の「鹿児島七ツ島ソーラー科学館」と「薩摩無双株式会社」を見学させてもらった。近年、再生可能エネルギーに注目が集まり太陽光発電はこれから成長する分野で私自身も興味があったので大変参考になり、また鹿児島は焼酎づくりが盛んな土地なので普段飲んでいる焼酎がどのように製造されて販売されているか知る機会ができた大変貴重な時間を過ごし勉強させてもらった。

今回の研修をこれからの業務へ活かしていきたい。

システム情報技術系第一班 松元 明子

今回の研修で多くの時間が割り当てられていたのは、プレゼンテーション研修だった。プレゼンテーションの基本は、誰に何をどのような目的で伝えるのかということである。研修では伝えるべき内容を整理する技術や、伝えるための技術を学んだ。頭では理解できても、実際に構造的に整理して話したり伝わるように話したりすることは難しい。研修中、何度かプレゼンテーションを行ったが、どの程度実践できていたのかは疑問である。まずは、日々の生活の中で構造的に整理して考えることを心がけたい。

施設見学は、地元でありながら初めて訪れる場所ばかりだった。日頃から、桜島を間近に望む鹿児島市で太陽光発電がうまくいくのだろうかかと疑問に思っていたが、「鹿児島七ツ島ソーラー科学館」を見学し、火山灰はそれほど大きな問題ではないということがわかった。火山灰を考慮して設計されたものではないと思うが、雨風による腐食が起きにくい仕組みとなっていた。今ある技術でエラーが起きにくい仕組みを提供するという事は、われわれ技術職員に求められていることと同じだと感じた。

中堅技術職員として、今後ますます構造的な考え方が求められる。客観的に全体像を見極めることができるよう、自身の日々の業務をしっかりと管理していきたい。

生産技術系第三班 中村 達哉

本研修は、「講話・講義」、「講習・演習」、「施設見学」の 3 つから構成されていた。まず、「講話・講義」においては、大学院理工学研究科技術部（本技術部）の外部評価の実態、メンタルヘルスの概要や技法、職場における事故や対策の事例等を知ることができた。次に、「講習・演習」では、プレゼンテーションについて学び、限られた時間の中で明確に伝えることの困難さを再認識させられた。また、相手の理解度を把握するための表情確認や、より伝わるようにジェスチャーを用いる等、プレゼンテーションの技術を学ぶことができた。最後に、「施設見学」では、「鹿児島七ツ島ソーラー科学館」と「薩摩無双株式会社」を見学し、それぞれの施設や設備、作業内容等を知ることができた。

本研修を通して、より良い職場作りに必要な情報、プレゼンテーションの技術、地元企業の現状等を得ることができた。また、九州地区の技術職員の方々と交流することができ、とても有意義な研修であった。